

令和2年度学校教育自己診断アンケートの分析

文責 首席 佐々木 哉司

1. 回答数と回答率

生徒の回答数 401(回答率 94.8%)、保護者の回答数 250(回答率 59.1%)、教員の回答数 46(回答率 95.7%休職中 2名)であった。

肯定的回答とは回答 1 (そう思う)・2 (ややそう思う) の合計の数値 (%) で、否定的回答とは回答 3 (あまり思わない)・回答 4 (思わない) の合計の数値 (%) である。また、△は前年度と比べ増えている場合、▼は減っている場合であり、数値はそのポイント差を表します。

2. アンケート集計における傾向

昨年度のアンケート集計との比較をすると、保護者の肯定的回答の学年別で5ポイント以上の増加項目数が 41 (△20)、全学年で昨年度同様に 12 (0) あり、肯定的回答率が 70%以上のものが学年別に 10 (△6)、全学年で 1 (0) であった。

また、生徒における肯定的学年別で5ポイント以上の増加項目数が 19 (▼17)、全学年で 1 (▼12) あり、肯定的回答率が 60%以上のものが学年別に 17 (△3)、全学年で 4 (▼1) であった。

3. 授業について — 生徒 3～5, 16、保護者 7, 8、教員 5, 6, 9

生徒の肯定的回答が「5 学習の評価は、テストの得点と、提出物、授業の態度、出席状況など生徒の努力や授業に取り組む姿勢を含めて行われている」が 65.9%(△6.2)と昨年同様に上昇、「16 複数の先生が入った授業や少人数展開の授業はわかりやすい」61.1(△3.9)は一昨年度から見ると 13 ポイント上昇しておりうれしい限りである。また、保護者の「8 テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」が 69.2%(△2.3) と同じく連続上昇している。

教員の取組みとしても「6 少人数指導を取り入れるなど、指導方法の工夫・改善に努めている」90.9%(▼1.2)をはじめ、「5 各教科において教材の精選・工夫を行っている」

86.4%(△0.1)、「9 生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている」が 84.1%(△3.7)と高い数値となっている。しかし、依然として生徒の「4 家庭で宿題、復習、予習など学校の勉強をしている」は 27.2%(△3.4)と低く、「3 授業はわかりやすく楽しい」が 45.7%(△0.1)、保護者の「7 子供は授業がわかりやすく楽しいと知っている」が 49.2%(△5.0)、と上昇しているが、まだまだ低い数値である。学習面での達成感や学習意欲向上への取組みによる変容まで到っていない現状が浮き彫りとなっている。めざす授業像である「わかる」「できる」「おもしろい」授業の実現にむけて、教員は再々度、その成果が反映され実現できるようにあきらめず日々努力しなければならない。

4. 学校生活全般(生徒指導含む) — 生徒 1、2、13、保護者 10、11、12、教員 3、4
生徒の肯定的回答が「13 学校生活についての先生の指導には納得できる」が 45.1%(△3.8)と若干上昇しているが、「1 学校に行くのが楽しい」59.8%(▼0.9)、「2 学校は生徒の意見をよく聞いてくれる」44.2%(▼2.7)、保護者の「10 生徒指導面で、学校は家庭連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」50.4%(△1.6)、「11 学校の生徒指導の方針に共感できる」51.6%(△0.1)であり、低い数字である。努力をおしまないよう肝に銘じたい。ただ、保護者が「12 子供は学校に行くのを楽しみにしている」67.6%(△11.1)が次の教育への糧になっている。

5. 学校の基本姿勢 — 保護者 1～4

「1 学校は教育方針をわかりやすく伝えている」の肯定的回答率は 61.2%(△3.4)、「2 学校は教育情報について、提供の努力をしている」64.8%(△4.2)、「3 学校は保護者の願いにこたえている」57.6%(△3.2)であり、この 3 項目は 2 年連続上昇している。しかし「4 学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」は 65.6%(▼1.4)で低下していた。相談体制についてしっかりと周知し、相談しやすい環境を救っていききたい。

6. 学校行事などについて — 生徒 9、18、保護者 14、23、24、教員 20

学校行事に関する項目(生徒 9、保護者 14、24 教員 20)、PTA 活動の項目(保護者 23)や地域連携関係(生徒 18)に関してはコロナ禍の影響で例年になく中止や制限付き実施に至っているため分析するには困難であると判断いたしました。

7. 生徒会活動と部活動について — 生徒 10～12、保護者 15～17

生徒の「10 生徒会活動に関心を持って積極的に参加している」の肯定的回答率が 31.9%($\Delta 2.2$)、「11 学校は部活動が活発になるよう、積極的に取り組んでいる」34.4%($\Delta 3.8$)、「12 自分としては、部活動に積極的に取り組んでいる(取り組んでいた)」40.1%($\Delta 2.1$)、と生徒会活動や部活動を行っていない生徒の意識は非常に低い現状がある。保護者の「15 生徒会活動は活発である」35.2% ($\Delta 2.2$)、「16 部活動は活発である」36.0%($\Delta 5.3$)や「17 子供は部活動に積極的に取り組んでいる(取り組んでいた)」40.8%($\Delta 7.2$)などすべての項目で上昇しているがともに低い。生徒の主体的・自主的な活動が基本になっているため意欲向上に期待したい。

8. 人権尊重などの教育について — 生徒 14, 15, 17、保護者 18～22

生徒の肯定的回答率が「14 学校や社会のルールについて学ぶ機会がある」58.1($\Delta 1.7$)、「15 命の大切さや人権について学ぶ機会がある」71.1% ($\Delta 0.6$) と4年連続増加している。また、保護者の「19 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」56.8%($\Delta 5.1$)、「18 学校は自分の生き方を考え、豊かな心を持った生徒を育てようとしている」50.0%($\Delta 11.3$)、「20 学校は子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている」53.6%($\Delta 7.0$)、「21 先生はすべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導している」50.4%($\Delta 2.7$) と上昇しており日頃の人権教育の一定の成果と考える。しかし、数値的には50%程であり、更なる向上が必要である。

プライバシーに関することにおいても「17 成績などの内容についてプライバシーが守られている」64.8%($\Delta 2.8$)、保護者の「22 学校では子どもに関する個人情報が守られている」65.6%($\Delta 2.7$)とあるが、なお一層の評価向上をめざす。

9. その他(いじめ関連含む) — 生徒 19、20、保護者 27、28

・いじめ関連における項目では、生徒の「20 先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」44.9%($\Delta 3.6$)、保護者の「28 学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」43.6%(4.1)であり、満足のいく回答結果ではなかった。相談窓口の周知などに努めていくことが必要であ

る。また、この結果を真摯に受け止め、より一層の努力を要する。

・施設設備に関する項目において、生徒 19・保護者 27 と共に「学校の教室など施設・設備はよく整備されている」の肯定的回答率が各 38.7%(△3.1)、45.2%(△7.6)と低く、府教育委員会に要望を続けるとともに、大阪府高等学校 PTA 連合会への要望や、「大阪府立島本高等学校を支援する会」に援助を要請しながら早急な改善に努めなければならない。

10. 教員によるアンケート結果より

・教員数が 44 名（昨年度 51 名）、と母数が少ないうえ 7 名の人数削減のなかで比較することの有効性が見いだせているかの判断をするのは難しいところである。このことを念頭においたうえで傾向分析を行った。

・「24 教育活動において、生徒に社会規範や市民道徳を守る意識が育まれる機会をつくるよう配慮している」59.1%(▼19.3)、「48 保護者や地域の人々と接する機会を設けている」70.5%(▼9.9)についての数値が低いのはコロナ禍の影響であろう。また、「42 初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」52.3%(△18.9)が上昇しているが、「44 研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている」50.0%(▼12.7)の減少もコロナ禍の影響と思われる。

・「32 学校運営に教職員の意見が反映されている」54.5%(△11.4) 「33 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の肯定的回答率が 63.6%(△24.4)、など回復できたものもある。

・「39 この学校では、清掃がいきとどいている」40.9%(△3.7)や「16 校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、生徒や教職員の間で話し合う機会がある」43.2%(▼5.8)、「22 学校として、部活動の活性化について工夫している」40.9%(▼4.2)の 3 項目については教員自ら問題意識を持ち改善していく必要がある。